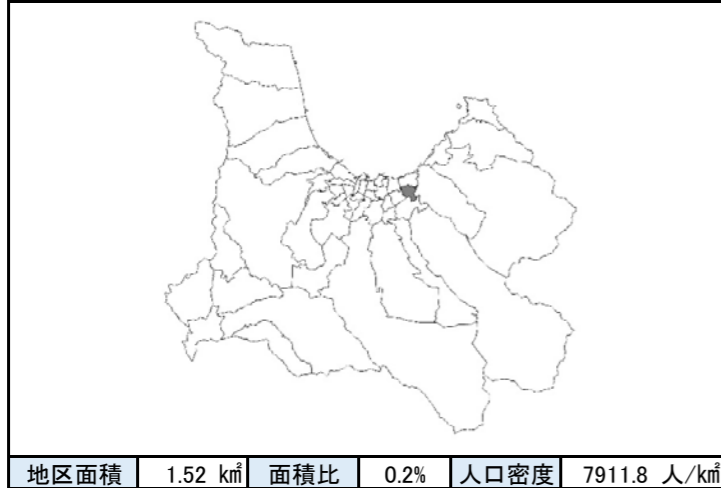


地区別防災カルテ

様式1 防災データベース

No. 13
小柳小学校

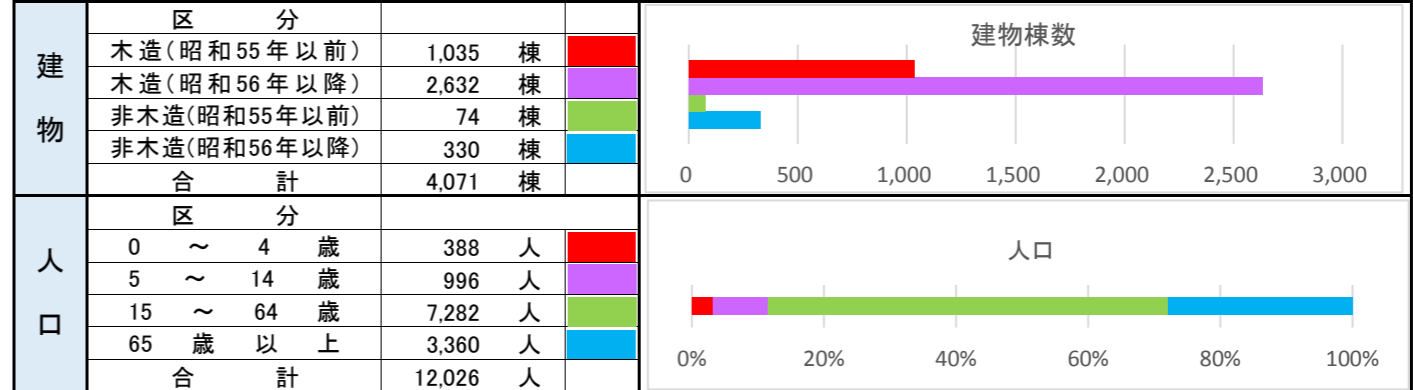
●位置図



●地区を構成する町丁

小柳字朽葉、中佃三丁目の一部、岡造道一丁目の一部、岡造道二丁目の一部、岡造道三丁目の一部、小柳一丁目から小柳六丁目、自由ヶ丘一丁目、自由ヶ丘二丁目、はまなす一丁目の一部、はまなす二丁目の一部、けやき一丁目の一部、けやき二丁目の一部

●建物数・人口



●防災関連施設分布

| | | |
|------------------|-------|---|
| 市役所、支所、その他主な公共施設 | 2 箇所 | ほろがけ福祉館、中央市民センター小柳分館 |
| 警察署 | 0 箇所 | |
| 消防署 | 0 箇所 | |
| 消防団詰所等 | 1 箇所 | 浜館分団5班 |
| 病院等 | 11 箇所 | えらデンタルクリニック、さかがみ歯科クリニック、なかた小児科、永井耳鼻咽喉科クリニック、佐藤内科クリニック、三浦歯科医院、若井歯科医院、千代谷皮膚科、渡辺歯科医院、武田整形外科医院、福士レディースクリニック |
| 幼稚園・保育園 | 5 箇所 | [認定]第二すぎのこ幼稚園、小柳保育園、青森第一とう幼稚園、青森第三なかよし保育園、青森第二なかよし保育園 |
| その他、主要な配慮者利用施設 | 7 箇所 | [在宅介護]ふれあい、グループホームふれあい、シニアパシオン青森・小柳、デイサービスさくら、デイサービスふれあい、デイサービス遊楽苑、ほのほのハウス自由ヶ丘 |
| | 5 箇所 | 小柳第三放課後児童会(小柳小学校内)、小柳放課後児童会(ほろがけ福祉館内)、小柳放課後第二児童会(市営住宅小柳第三団地集会所内)、襲懸児童遊園、襲懸第二児童遊園 |
| | 0 箇所 | |
| 障がい者施設等 | 0 箇所 | |
| 学校等 | 1 箇所 | 小柳小学校 |
| 避難所 | 3 箇所 | ほろがけ福祉館、小柳小学校、中央市民センター小柳分館 |
| 広域・一時避難場所 | 3 箇所 | 自由ヶ丘西公園、自由ヶ丘中央公園、小柳緑地 |
| 臨時ヘリポート | 0 箇所 | |

●地区概況・所見

- 青森市中央部より東側に位置している。
- 隣接小学校区は造道、原別(南)、浜館、佃、浪打。
- 校区の中央を青い森鉄道線が横断し、重要水防箇所Aランクの赤川が校区を縦断している。また、校区中央付近には小柳団地があり、多くの市民が住んでいる。
- 建築年代の新しい昭和56年以降の木造建築が半数以上を占めるが、棟間隔が狭い地区もあるため注意が必要。

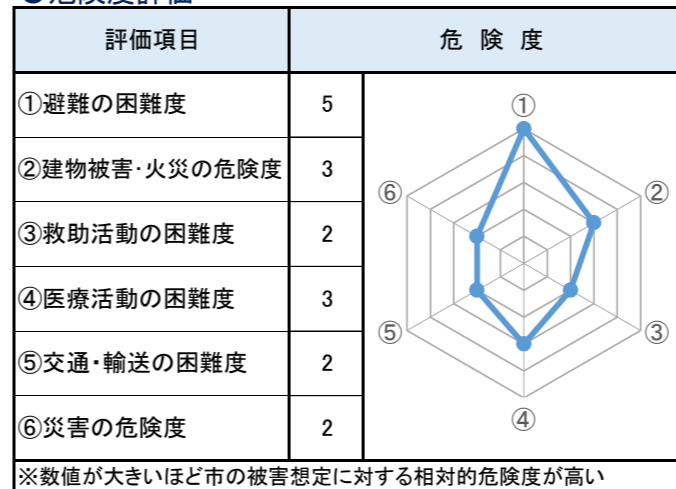
●地震被害予測結果

| | 入内断層地震 | | | | | | 太平洋沖地震 | |
|---------|--------------|--------|---------------|-------|--------------|-------|--------------|-------|
| | 冬18時(風速3m/s) | | 冬早朝深夜(風速3m/s) | | 夏12時(風速3m/s) | | 冬18時(風速3m/s) | |
| | 被害量 | 比率 | 被害量 | 比率 | 被害量 | 比率 | 被害量 | 比率 |
| 建物全壊 | 868 | 21.32% | 174 | 4.27% | 147 | 3.61% | 26 | 0.64% |
| 建物焼失 | 730 | 17.93% | 36 | 0.88% | 16 | 0.39% | 15 | 0.37% |
| 死者 | 27 | 0.22% | 9 | 0.07% | 4 | 0.03% | 1 | 0.01% |
| 重傷者 | 21 | 0.17% | 15 | 0.12% | 7 | 0.06% | 1 | 0.01% |
| 自力脱出困難者 | 23 | 0.19% | 39 | 0.32% | 16 | 0.13% | 0 | 0.00% |

●近年の主な災害履歴

| | | | |
|------|------------|------------|--------------------------------|
| 地震 | 2011年3月11日 | 東北地方太平洋沖地震 | 市内全域で約1日の停電 |
| 台風 | 2013年9月15日 | 台風18号 | 市内全域で(床上浸水24件/床下浸水128件/一部破損2件) |
| 集中豪雨 | 2012年7月16日 | 大雨被害 | 青森地区全域で(床上浸水1件/床下浸水16件) |

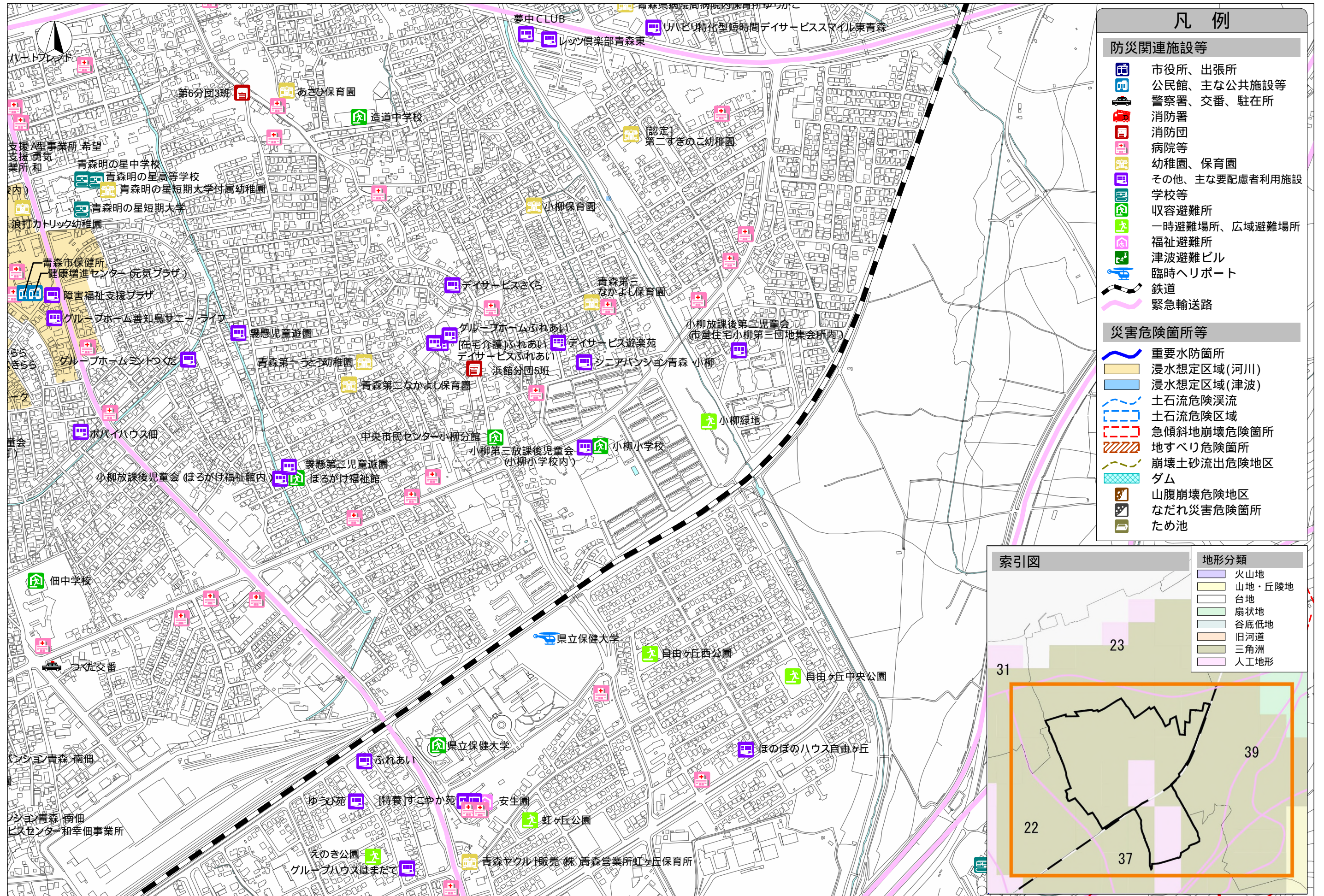
●危険度評価



●防災上の課題

- 場所によっては棟間隔が狭い地区もあるため、延焼に注意が必要。
- 重要水防箇所Aランクの赤川が校区内を縦断しているため、注意が必要である。
- 避難所数が少なく避難者を収容できない、または避難所数が少ない等の理由により避難困難度が非常に高い。
- その他の相対的危険度については概ね低いと言える。

●メモ欄



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 平-情使、第...号)